　公衆衛生の広がりや日進月歩の医療の発展のおかげで、昔は助からなかった病気でも完治や延命が可能になりました。しかし高度経済成長に伴って、家族の形態や役割、いのちの営みにも変化が訪れました。それは生命の誕生や終わりが、医療（病院）の中に取り込まれて行くことに繋がっていきました。

昔は、死を自然のこととして受け入れることができた人々が、死は怖いもの、避けるべきものとして捉えるようになりました。高度に発達した医療の影響もあり、何をどう選択すればいいのか、そして避けることのできない死を受け入れることも難しいような価値観（死生観）も生まれてきました。

どんなに医療が発達しても、いつの日か必ず死は訪れます。いのちの終末期における意思決定は、人々の死生観の歪みも加わり今後ますます複雑化していく可能性があります。終末期の意思決定支援についてみんなで考えましょう。